

この頃、アクティ
ブ・ラーニングが注
目され、暗記は意味
のないことだとい
声をよく聞くよう
になった。本当にそ
うだろうか。この問
題について考えてみ
たい。

単語帳にリストさ
れてある英単語と日
本語で対応する単語
のリストを必死で暗
記しても、英語で自

由に話したり書いたりできるように
ならない。なぜか。一つには、単語
の知識が文法の知識と統合されてい
ないと、文は作れないからである。
語彙数を増やそうとすると、それ
ぞれの単語が英語の文法のどのよう
な文脈で使われているかを考慮せ

英語が難しい理由はこれだ

ず、単語だけを暗記しよ
うとするから、その単語
を使って文を作れないの
である。

もう一つは、個々の英
単語の意味の範囲が、訳
語として当てられた日本
語の単語と同じであると
いう想定で、覚えた単語
を誤って一般化してしま
うからである。この想定
は、英語の習熟を妨げる、
誤ったスキーマの典型と
いえよう。このスキーマ

があると、それぞれの英
語の単語のさまざまな使
い方や意味での文を読ん
だり聞いたりしても、日
本語の訳語に合わない文
例は全部スキーマのフィ



⑨

ルターで取り除かれ
てしまい、合う用法
しか記憶に残らな
い。

つまり、英語を自
由に書いて話せるレ
ベルに上達させよう
と思うなら、「英語
の単語の範囲」日本
語訳語の範囲」とい
う、誤ったスキーマ
を崩さなければなら
ないのである。

日本語と英語の単語の範囲の差を常
に意識しながら、英語の文章を読ん
だり聞いたりして、自分で英語の単
語の意味の範囲を探していき、さら
に語彙全体の構造が日本語とどのよ
うに違うかを考えていくことが必要
である。

しかし、人が自然に培ってきた誤
ったスキーマを崩すのが容易でない
のは、第5回すでに述べた通りで
ある。「英単語の範囲が日本語訳の
単語の範囲と違う」ということを、
いくら頭で知っていても、それぞれ
の単語で「どう違うのか」が分から
なければ、結局、無意識に日本語ス
キーマを使ってしまふ。言い換えれ
ば、誤ったスキーマは身体に染みつ
いているので、それを修正するには、
身体に新たなスキーマを覚え込ませ
なければならぬ。

それには誤ったスキーマに戻らな
いように意識をしながら繰り返し単
語を使う練習をするしかない。連載
最終回となる次回では、知識を身体
の一部にし、必要なときにすぐに使
える生きた知識にするには、どうい
う学習の方法が有効かを考える。